



マイカーデモシク

屋上は楽しさがいっぱい!

私の家は駅の近くで人通りも多く、車の通行量も多いので、8年前の家の建て替えの時、屋上に洗濯物干場だけでなく、土を入れ芝を張り池もつくってしまいました。



最初は芝だけだったのですが、緑一色では寂しいので池の周りは花壇にして、花や野菜を植えるようになり、今では四季折々の花や無農薬野菜を楽しんでいます。主人が趣味で鳥骨鶏を飼っている



本町一丁目の北島栄子さん(54歳)

ので、肥料は野菜くずや雑草と鶏糞を混ぜ堆肥をつくり花壇にまきます。また、通りに面した店の前には、大きめのプランターに花や木を植えていますが南に面しているのでよく育ち、通る人に「いつもきれいですね」と言われると花を育てる喜びとは別のほのぼのとした気分にもなり力が入ってしまいます。

これからもたくさんの花に囲まれて暮らしていきたいと思えます。

ぼくはペンギン!?

1歳2か月を過ぎてよちよちと歩き始めた悠斗。歩けることがとてもうれしらしく靴を履いて外に出ると、もうにこにこです。この写真は動物園に行ったときの1枚ですが、動物を見るよりも歩くことの方が楽しかったようです。両手でバランスをとりながらピョコピョコと歩くその姿は、まるでペンギンのよう。見ているこちらも楽しくなります。そして愛しくもなります。

何かの本に息子と母親は恋人のようだと書いてありましたがうなずけました。まあ、それは小さいうちだけでしょうが、大きくなったときに「産んでくれてよかった。」と思ってもらえたらうれしいですね。そして、いろいろな意味でスケールの大きい人に育ってほしいと思います。

北町
中田美紀さん
31歳



KOGA
万華鏡

秋の企画展

歴史博物館では古河藩土井家中の刀剣・甲冑を中心にした武器展を計画しています。江戸後期、土井家の石高は8万石となっており、家臣団は城代家老3千石を筆頭に士分格は203家を数えます。

藩は本来軍事組織であり城内各所に武器類を備えていたほか、家臣の家々にも武器が伝来していました。そして長い間この武器類は武器としての役割だけでなく藩や家のシンボル、あるいは贈答品や魔よけなどさまざまな働きも担っていました。

しかし近代社会をむかえ社会・経済の大きな変革により伝統的武器類はその存在基盤を失っていきます。まず明治9年の廃刀令により、それまで武士の特権であった帯刀が禁止された上に、使用目的を失った武器類は経済的理由から散逸しはじめ、一部は海外に流出しました。



古河藩武器の展覧会(年代・場所不明)

さらに震災や第2次世界大戦時の空襲で焼失したほか、刀剣は戦時中に軍刀として使用され多くが失われました。

ところで敗戦後、占領軍により接収された武器のうち廃棄を免れた刀剣が東京北区赤羽の米軍兵器補給廠に集められ、その後約5500本が東京国立博物館で保存されてきました。これを俗に赤羽刀と呼んでいますが、平成11年、全国の博物館・美術館に譲与されることになり、当館も古河ゆかりの小山宗次をはじめ8本の刀・槍を譲り受けました。今秋の展示で一部紹介します。

このように日本の伝統的武器類は武器としての役割を終えた現在、すぐれた美術工芸品として研究や鑑賞の対象となっています。今秋の展示では、これら武器類の機能美とそれらに付随した働きを紹介していく予定です。

古河歴史博物館 学芸員 鷲尾政市

5月1日発行

発行所/〒300618601茨城県古河市長谷町38番地号 古河市役所 0280-227111
発行人/古河市長 編集/市民の声をきく課 印刷/成田商事株式会社

古河藩の武器展にむけて